

- 3 次の史料を読んで、下記の設問(問1～6)に答えなさい。なお、出題の都合上、史料は改めたり省略したりした箇所がある。

史料

「大君職」を継承するために、^{タイクナート}太閤様が強大な兵力と決意をもって内乱を起こして以来、内戦や反乱はたえて起こらなかつたことを、歴史は物語っているようだ。もっとも大胆な領主までも服従させ、独立していた諸侯の権力を奪ったのは、この^{タイコーサマ}太閤様である。キリスト教を根絶し、大貴族を恭順させることが、かれのいっていた二つの主目的であったようだ。というのは、だれが主権をにぎっていようが、この二つが主権にたいする危険だと考えていたからである。かれは、在世中に、前者の目的は達成したが、後者の方はただたんにそれへの道をひらいたというにすぎなかつた。(中略)現在の^{タイクーン}大君王権のなかには、かれの血は一滴もはいていない。幼いままに^(d)叔父の後見に托された^(e)かれの子さえも、いちども政権の手綱をにぎらず、^(f)成年期に達して自分の権利を主張しようとして(叔父の攻撃をうけて)滅亡した。これと同じく、多くのキリスト教信者や外国人宣教師たちもまた、自分たちの権利を主張しようとしたが、武力に訴えて失敗し、ともに滅びた。かくして、一世紀にわたって成長をとげたキリスト教も、島原において死に絶えてしまった。

(オールコック『大君の都——幕末日本滞在記——』)

問1 下線部(a)・(d)・(e)が指し示す人物は誰か、それぞれ答えなさい。

問2 下線部(b)について、

(1) 「^{タイコーサマ}太閤様」が服従させた「もっとも大胆な領主」のひとりが九州地方の戦国大名 義久であった。

空欄 にあてはまる語句を答えなさい。

(2) 「^{タイコーサマ}太閤様」が、キリスト教が日本の主権にかかわる問題をひきおこしていると考えようになったのは、「もっとも大胆な領主までも服従させ」るために九州地方に赴いたときの見聞からである。「^{タイコーサマ}太閤様」が見聞した、主権にかかわる出来事とは何だったか、30字以上40字以内で答えなさい。

- (3) 「^{タイコーサマ}太閤様」によるキリスト教禁止の主たる目的が、キリスト教から日本の主権を守ることにあつたと解釈することができる理由について、^{タイコーサマ}「太閤様」が出した二つの法令を挙げて 70 字以上 80 字以内で説明しなさい。

問 3 下線部(c)について、

- (1) 「^{タイクーン}大君」とは何か、官職名を答えなさい。
- (2) 「^{タイクーン}大君」は、もともと朝鮮からの使節が持参した国書の表記「日本国大君殿下」に由来する。これを「日本国王」と改めさせた朱子学者は誰か、答えなさい。

問 4 下線部(f)について、

- (1) 「一世紀にわたって成長をとげたキリスト教」は金属製活字を用いた活版印刷技術や、印刷機をもたらした。こうした技術を用いて、日本の古典の翻訳書や日本語辞書の印刷出版がおこなわれた。これらの印刷出版物を何というか、答えなさい。
- (2) キリスト教信者は「島原において死に絶えてしまった」わけではない。島原の乱の後にも信仰を保持したキリスト教信者が存在したことを、1863年に史料『大君の都』を出版したオールコックは知らなかったようである。1868年に、長崎でキリスト教の信仰を公表した信者たちが流罪に処された事件を何というか、答えなさい。

問 5 史料の筆者オールコックは、日本について知識の不足している点については「ケンプファー」、「トゥーンベリ」、「シーボルト」らオランダ商館に配属された医師たちが書き残した手記に頼っている。

(1) ドイツ人医師で博物学者の「ケンプファー」は帰国後に『日本誌』を著した。その一部を『鎖国論』として訳出した人物は誰か、答えなさい。

(2) 「トゥーンベリ」はスウェーデン人の医師・植物学者であり、江戸参府の道中で収集した植物標本などをもとに『』を著した。

空欄 にあてはまる語句を答えなさい。

(3) 「シーボルト」が開設した に学んだ伊藤玄朴は江戸で蘭医として開業し、 の設立に尽力した。 はその後何度かの制度変更をへて東京大学医学部となった。

空欄 ・ にあてはまる語句を答えなさい。

問 6 史料の筆者オールコックはイギリスの外交官として来日し、長州藩による外国船砲撃への報復として、1864年に 事件を主導した。

空欄 にあてはまる語句を答えなさい。